

脾瘡發生ニ關スル二三ノ事項

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38291

十全會雜誌

第十八卷第七號(第九十號)

大正二年七月一日發行

原著及實驗

●脾疳發生ニ關スル二三ノ事項

(日本小兒科學會第十八回總會演說)

岡本京太郎

所謂脾疳ナル疾病ハ、如何ナル要約ノ下ニ發生スルモノナリヤ、吾人尙其多クヲ知ラズ、從テ之ガ眞ノ原因ハ未ダ確定セザルモノ、如シ、故ニ余ハ聊カ之ニ關スル小統計的觀察ヲ試ミ、以テ脾疳原因ノ研究ニ資セントス茲ニ脾疳ト稱スルモノハ、余ガ嘗テ第八回日本內科學會總會ニ於テ「所謂脾疳ノ症狀ニ就テ」ト題シテ述ベタルモノ、如ク、全身營養障礙ニ因スル眼乾燥症ヲ有スルモノヲ標準トシタルモノニシテ、確實ナル脾疳ト自信スルモノナリ、而シテ其實驗數今日迄ニ六十九名ニ達セリ、之ヲ先ヅ性及年齡ニ從テ統計スレバ左ノ如シ

性	年齡	二歲	三歲	四歲	五歲	六歲	七歲	八歲	九歲	十歲	十一歲	計
男		一〇	一三	一五	三	三	三	一	〇	一		五一

此表ニヨリテ見レバ、脾疳ノ最モ多ク發生スル年齡ハ、第二年ヨリ第四年ノ間ニシテ本邦當習ノ斷乳期ニ相當ス、然レドモ學童期ニ至リテモ尙且ツ本病ノ發生シ得ルコトヲ知ルベシ、但シ余ハ乳兒期ニ於テ十數名ノ全身營養障礙ニ伴フ「キセローシス」或ハ角膜軟化ヲ有スル患兒ヲ實見セシモ、何レモ皆米粉營養兒ニ來リシモノニシテ、Reisnährschadenニ屬スルモノナルガ故ニ、暫ク茲ニ之ヲ省ケリ。併シ米粉營養兒ニ「キセローシス」ノ多キヲ見ルハ、脾疳本態ノ研究上留意スベキ條件ナリト信ズ、而シテ性ニ關シテハ男兒ガ女兒ヨリ三倍ノ多數ヲ占ムルヲ見ルモ、余ハ未ダ其何ノ故ナルヤヲ知ラザルナリ又之ヲ都市ト村落トニ類別スレバ

村落四十人 市町二十九人

ニシテ村落ノ兒童ニ甚ダ多キモ、市中ノ小兒モ亦屢々ニ之罹ルヲ見ルナリ。但シ市中ノ患兒ハ大抵場末ノモノニシテ、且ツ皆輕症ナリシハ事實ナリ家庭ノ職業ニ就テハ

農	二十八人	商	十四人	工	三人
漁夫	六人	官吏	一人	僧侶	二人
小使	一人	不明	十四人		

ノ數ヲ得タリ。但シ商ノ申ニ數ヘシハ菓子屋、米屋、雜貨商、綿屋、酒屋、料理屋、魚屋、味噌屋、宿屋、紬屋等ニシテ、何レモ中等以下ノ生活狀態ニアルモノナリキ、之ニ依テ見レバ脾瘧患者ハ農家ニ於テ最も多ク、之ニ次グハ商家ナリ。何レモ生活狀態ノ可哀ナラザル家庭ノ小兒ニ於テ發生スルヤ明ナリ余ハ更ニ進ンテ四季ニ分テ觀察セント欲セシガ、茲ニ至テ全脾瘧患兒ヨリ合併症ヲ有スルモノヲ除外セザル可ラザルヲ感ゼリ。何トナレバ合併症ヲ有スルモノハ、爲メニ本病初發時期ニ誤認ヲ與フルノ恐アレバナリ、故ニ余ハ六十九例ノ脾瘧中ヨリ只僅ニ四十四例ノ單純ナルモノヲ得テ、統計セリ

則チ

月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
初發	○	○	○	○	二	四	五	一	三	七	一	○
初診	○	○	○	○	一	一	二	七	一	四	九	七
												二
												一

備考 此外單純脾瘧中、初發時期ノ何月ナリヤ、不明ナルモノ尙五例アリ、則チ一例ハ春、二例ハ秋、二例ハ夏トノミ記載セシモノナリシガ故ニ茲ニ算入セザリキ

是ニヨリテ見レバ、本病ノ最も多ク發生スル時期ハ、七月ニシテ、初診ノ八月ニ最も多キハ、發病後一ヶ月内外ニ醫治ヲ乞フモノノ最も多キガ爲ナラシ、而シテ十月以後四月迄ニ本病ノ初發スルモノノ極メテ少數ナルガ故ニ、五月ヨリ八月ノ間、即チ春ノ末ヨリ夏ノ間ヲ以テ、本病發生ノ時期ト見做シテ可ナリ。本患兒既往ノ健康狀態ニ就テ、余ガ「プロトコル」中ニ明記セ

ラレシモノ四十名アリシヲ以テ之ヲ類別セシニ

強壯ナリシモノ 二十八人

虛弱ナリシモノ(下痢症ニ罹リ易キ) 十二人
(モノ多數ヲ占ム)

ニシテ、發病前比較的健康ナリシモノ甚ダ多シト云フベシ、之レ本病ハ既往ノ或ル疾病ト直接ノ關係ヲ有セザルヲ示スモノナリ、余ハ之ヲ以テ麻疹、百日咳、或ハ胃腸障礙ノ誘因的關係ヲ否定スルヲ欲セザレドモ、本病ガ他ノ疾病ノ症狀群ニ非ザルノ一證左タルヲ信ズルナリ

本病ガ急性傳染病ニヨリテ誘發セラル、コト多シ、トハ先輩諸氏ノ説クトコロナルガ故ニ、余ハ更ニ此關係ヲモ調査セシガ、「プロトコル」ノ不備ナル爲メカ確ニ一定傳染病後ニ引續キ發生セシモノト信スベキハ、僅ニ左ノ少數ニ過ギザリキ

麻疹後 六人 百日咳後 六人 「マラリヤ」後 一人

以テ本病ハ原發スルコト多クシテ、傳染病ニヨリテ、誘發セラル、コト人ノ信ズルガ如ク多數ナラザルヲ知ルベシ

之ニ反シテ母乳閉止或ハ其減少ガ本病發生ニ一定ノ關係アルガ如ク見ユルモノノ少カラズ、則チ母氏ノ死亡、妊娠、乳腺疾患或ハ全身病ニヨリテ斷乳セシ後引續キ本病ヲ發セリト云フモノ、余ガ六十九名ノ患兒中十九名ヲ算セリ。故ニ斷乳爲メニ來ル脂肪不足(ガ直接ニ本病發生ヲ促スカ、或ハ間接ニ斷乳後ノ營養不適ノ結果胃腸障礙等ヲ來シテ之ヲ誘發スルカ、何レニセヨ斷乳ト本病發生ノ間ニ密接ノ關係アルヤ明ナリ。然レドモ斷乳トノ關係ナクシテ發スルモノモ亦甚ダ多キガ故ニ、本病發生ノ眞ノ要約ハ母乳ノ禁斷ノミナラザルヲ知ルベキナリ

併シ營養法特ニ脂肪食品ノ不足ガ本病發生ニ一定ノ關係ヲ有スルコトハ人ノ是認スル所ナルヲ以テ、余ハ尙之ガ精査ヲ必要ト感ゼシモ、余ノ「プロトコル」ニ其關係ヲ明記セザルモノ多ク、從テ目下少數ノ統計ニ甘ンゼザル可ラザルヲ遺憾トス、而シテ余ガ脾瘕患兒ハ乳兒期中如何ナル營養ノ下ニアリシカヲ見ルニ

母 乳 二十六人 牛 乳 一人

母 乳 及 牛 乳 一人 母 乳 牛 乳 及 米 粉 四人

ニシテ、大多數ハ母乳營養兒ナリキ、更ニ其母乳營養兒ニ就テ母乳哺哺ノ長短ヲ顧レバ

滿一年間 四人 一ケ年 六人 二ケ年 八人
 二ケ年半 三人 三ケ年 三人 三ケ年半 一人
 四ケ年 一人

ノ數ヲ得タリ。之ニ依テ見レバ本病兒ノ多數ハ滿一年以ト持續シテ十分ノ母乳ヲ受ケタルモノニシテ、二三年間モ母乳ヲ受ケツ、アリシモノ少カラザルヲ以テ、本病兒ハ他ノ兒童ニ比シテ嘗テ脂肪性營養ニ不足ヲ感ゼシコトナキモノト云フベシ

然ラバ則チ斷乳後ノ營養ハ如何、余ノ患兒ハ皆大人ノ如キ常食ヲ受ケシモノニテ、其中「プロトコル」ニ記載アルモノ左ノ如シ

魚肉不足ノ常食 十二人 魚肉十分ノ常食 十九人

(但シ本邦兒童ノ營養脂肪ハ母乳牛乳ノ外主トシテ魚肉ヨリ供給セラ

右ノ如ク斷乳後ニ於テモ、本患兒ノ營養品中脂肪ノ供給十分ナリト見做ス

ベキモノハ却テ多數ナルガ故ニ、今迄人ノ信ゼシ「脾瘕ハ多ク脂肪食ノ供給不全ニヨリテ發ス」テフ見解ハ稍ク事實ト齟齬スルノ感アリ。然レドモ肉食攝取不足ノ場合ニ發生スルモノモ亦少カラザルヲ以テ、脾瘕發生ハ肉食ノ不足ト關係ナシ、ト斷定センコトハ勿論早計タルヲ免レズ。要スルニ之ハ肉食供給ノ不足ヲ以テ脾瘕發生ノ唯一ノ條件ト見做ス可ラザルヲ意味スルモノナラン。茲ニ尙顧慮スベキコトハ、所謂「食ニ魚ナシ」ノ狀態ハ山間僻地ノ常習ニシテ、畜ニ脾瘕患兒ノミナラズ一般兒童モ同一生活ノ下ニアルコト是ナリ營養品ノ攝收消化ハ人ノ嗜好厭惡ト大ナル關係アルモノナルガ故ニ、假令食膳ニ多量ノ肉食アルモ、之ヲ厭惡スルモノハ攝收消化ニ損害アルノ恐アルガ故ニ、肉食豐富ナル營養ノ下ニアル本患兒モ這般ノ關係ヨリシテ、眞ノ意味ニ於ケル供給攝取ニ不足アルニ非ザルヤノ疑アリ、故ニ余ハ更ニ患兒ノ嗜好ト厭惡トニ就テ調査セシニ

嗜好 魚肉 二十七人 鹽味 六人 甘味 十人
 餅類 五人 不消化物 七人
 厭惡 魚肉 九人 甘味 九人 牛乳 三人
 卵 一人 果物 一人

ノ成績ヲ得タリ、則チ魚肉ヲ厭フモノヨリモ之ヲ好ムモノ多キハ、亦脾瘕ノ肉食不足ノ絶對的關係ヲ是認スルニ躊躇セザル事實ノ一ナリ。併シ之ヲ厭フモノモ亦少カラザルハ素ヨリ看過スル能ハズ、蓋シ本病兒ノ魚肉ヲ厭フハ、余ガ嘗テ「所謂脾瘕ノ症狀ニ就テ」テフ論文ニ敘述セシガ如ク、發生ノ要約タルヨリモ寧ロ本病ノ一症狀タルコト多キガ如シ。其他茲ニ甘味ヲ好マザルモノ、比較的多數ナルハ、普通小兒ノ嗜好ニ反スル奇異ナル現

モ之ガ爲メニ其吸收ヲ促進セラル、モノニ非ルナキカ
 此等ノ事實ニヨリテ考フレバ、脾瘧ハ脂肪供給ノ著シク減ジタル場合ニモ
 發生シ得レドモ、又假令脂肪供給豐富ナルモ何等カノ原因ニヨリテ之ガ吸
 收作用障礙セラルレバ、同ク本病ヲ發生シ得ベク、寧ロ後者ヲ以テ比較的
 多キ本病發生ノ要約ト見做シテ可ナランカ、本病ハ夏季農業者ノ兒ヲ多ク
 犯スハ、彼ノ山間僻地ニアリテ脂肪供給ノ豊カナラザル上ニ、暑氣或ハ傳
 染病胃腸疾患等ノ爲メニ之ガ吸收作用障礙セラレテ、本病ノ發生ヲ容易ニ
 スルモノト説明シ得ルガ如シ、而シテ肝油ハ其體內ノ脂肪饑餓ヲ補フニ最
 モ適切ナル營養品ナルガ故ニ、特ニ効ヲ奏スルモノナランカ、此點ヨリ見
 レバ吾人ハ森氏ノ *Liparolia* 説ヲ是認セザル可ラザルガ如キモ、余ハ未ダ
 同氏ノ如ク脾瘧ノ發生ヲ單ニ此脂肪不足ノミニ歸シテ、他ノ要約ヲ願ザル
 程大膽ナル能ハズ、茲ニ只體內ノ脂肪不足ガ脾瘧發生ノ大ナル要約タルベ
 キヲ是認スルニ過キザルナリ

● 所謂脾瘧ハ獨立ノ疾患ナリヤ

岡本京太郎

所謂脾瘧トハ果シテ一種獨立ノ疾病ナリヤ否ヤ多クノ學者ハ是カ獨立疾患
 ナルコトヲ疑ハスト雖モ又之ヲ他ノ疾病ノ症狀群ト見做シテ特別ノ一疾患
 トスルヲ肯セサルモノ少カラス故ニ吾人ハ所謂脾瘧ト稱スルモノハ單ニ或
 ル疾病ノ症狀群ニ過キサルヤ或ハ人ノ己ニ知了スル或ル疾病ノ變態ニハア
 ラサルヤ果タ或ハ確ニ特種ノ一疾患ト見做スベキヤニ就テ考究シ以テ之カ

決定ヲ與フルコトノ切要タルヲ感スルナリ然レモ所謂脾瘧患兒ナルモノ、
 病理解剖ニ就テハ未ダ報告セラレシコトナク余モ亦之ヲ剖見スルノ機會ヲ
 得サルヲ以テ此問題ヲ決定スルニ大ニ躊躇スル所アリト雖モ又退テ考フレ
 ハ一定ノ疾病(特ニ小兒營養病ノ如キ)ニハ假之精細ニ解剖スルモ特種ノ變
 狀ヲ認メスシテ他ノ方面ヨリ之ヲ研究シ以テ其本態及類別ノ闡明セラレタ
 ルモノアリ或ハ又已知ノ或ル疾病ト類似ノ病變ヲ呈スルモノニシテ他方面
 ヨリノ研索カ其別種ノ疾患タルコトヲ發見シタル例尠カラサルカ故ニ獨リ
 病理解剖ノミ這般ノ問題ヲ解決スル鍵鑰ナリト云フベカラス故ニ病理解剖
 上ノ所見ナクとも諸多ノ方面ヨリ考究スレハ遂ニ此問題ヲ解決シ得ルニ至
 ランコトヲ懷ヒ臨床上ノ觀察ニヨリテ聊カ茲ニ本問題ニ一指ヲ染メント欲
 ス

今所謂脾瘧ナルモノハ獨立ノ疾患ナリヤ否ヤニ就テ學者ノ所説ヲ案スルニ
 三派アルカ如シ則チ

- 一、他ノ疾病ノ症狀群ニ過キズトスルモノ
- 二、已知ノ或ル疾病ト同一若クハ其變態トスルモノ
- 三、獨立特種ノ疾患ト見做スモノ

是ナリ

第一説タル是チ一種ノ疾病ト見做サスシテ單ニ症狀群トナスモノ(池田氏)
 ハ曰ク吾人ノ脾瘧ト稱スル症狀ハ慢性腸加答兒或ハ腸間膜腺癆ニ罹レル小
 兒ニ現ハル、モノニシテ小兒ノ生理的特異性ニヨリテ異態ノ症狀ヲ現出ス
 ルニ過キスト然レモ脾瘧ノ固有症狀タル眼乾燥症ハ歐洲ニ於テ甚々稀ニシ
 テ本邦ニ於テ著シク多キハ統計上明ナル事實ナリ論者ノ言ノ如シバ小兒ノ